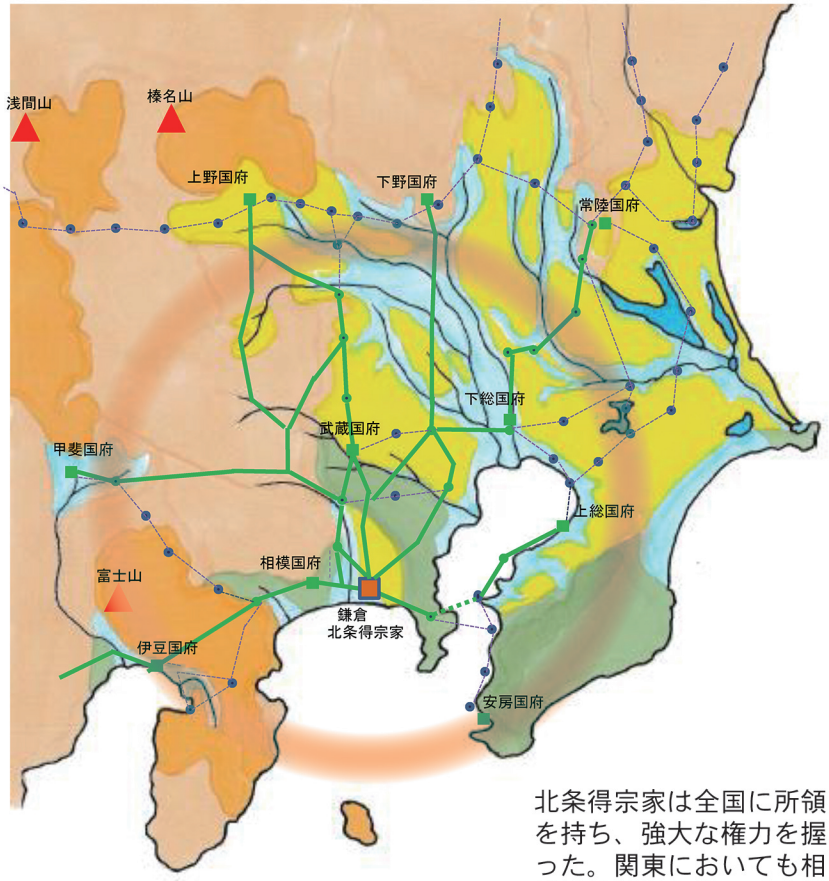

北条得宗家は全国に所領を持ち、強大な権力を握った。関東においても相模、武蔵を主として多くの得宗領を有した。

中世中期

【社会史・社会基盤】

◆日本国中に争乱が起き国内各地が疲弊したが、平氏政権が滅び、鎌倉幕府が成立し新たな秩序が確立された。頼朝の死と前後して有力御家人が淘汰され、北条氏による幕府体制が敷かれた。承久の乱以降、国の中心が東西に分立した形となり、関東の地位は高まった。

◆鎌倉時代には、鎌倉道を交通基盤として、鎌倉一極体制が確立され、律令制の痕跡が薄くなっていった。

◆北条得宗家による幕府運営が強化されていったが、元寇を機に更に全国支配の権力を強めた。一方で防衛戦の疲弊により社会が混乱した。

◆1333 年新田義貞、足利尊氏が挙兵し、鎌倉幕府は崩壊する。

【自然史・災害史】

◆1274 年(文永 11 年)と 1284 年(弘安 7 年)に元寇があり、関東ではこれに前後して浅間山噴火や鎌倉大地震が起き、鎌倉幕府体制は大きく揺らいだ。

鎌倉公方と古河公方は、利根川をはさんで対峙をつづけた。

中世後期

【社会史・社会基盤】

◆1336 年足利尊氏は室町幕府を樹立、南北朝時代が始まった。南北朝の対立は長期化し、関八州でも鎌倉府と古河公方との抗争が泥沼化し、各地に城ができた。1352 年武蔵野合戦があり、翌年、鎌倉府は武蔵国の入間川御陣に移設された。

◆1392 年南北朝が合体し、室町幕府体制が固まった。日明貿易が始まるなど、社会が安定化する。

◆しかし 1455 年には享徳の乱が起き、関東も大乱となる。太田道灌は江戸城を築き、1467 年には応仁の乱が始まり、戦国時代へと移行していく。

【自然史・災害史】

◆この時期は一時的に気温が温暖化して、社会も安泰に向かった。しかし、1427 年浅間山噴火、1435 年富士山噴火と続く頃には急激な寒冷化に向かう。

◆1495 年明応大地震と大津波が相模国を襲い、大災害をもたらした。これに乗じて、伊勢宗瑞(北条早雲)が伊豆国を支配する。